

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代の国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、①実社会に必要な国語の知識・技能 ②論理的思考と豊かな想像力 ③言葉の価値への深い認識と、その言葉を通して他者と関わる積極的な態度 の三つを養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことができること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること。	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取るうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業時の小テストの成績 ・ 授業中の発言内容 ・ 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業の振り返り記録 ・ 単元のまとめ記録 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での聞く態度 ・ 授業での話す態度 ・ ノートの作り方 ・ 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・ 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数				
前期	4月	【理解】「『未知』はいくらでもある」	定期考査①	14				
		【表現】話し方の工夫						
	5月	【理解】言語としてのピクトグラム			定期考査②	14		
		【表現】書き方の基礎レッスン						
	6月	【理解】十六歳の時					定期考査③	16
		【表現】待遇表現						
7月	【理解】身近な製品の取扱説明書を作成する	定期考査④	16					
	【表現】「間」の感覚							
8月	【理解】「弱いロボット」の誕生			定期考査⑤	18			
	【表現】論理的な表現							
9月	【理解】「弱いロボット」の誕生					定期考査⑤	18	
	【表現】論理的な表現							
後期	10月	【理解】ナマケモノになる	定期考査⑤					18
		【表現】情報の探索と選択						
	11月	【理解】言葉の海のオノマトペ		定期考査⑤	18			
		【表現】地域の魅力を紹介する						
	12月	【理解】臆病な詩人、街へ出る				定期考査⑤	18	
		【表現】スピーチで自分を伝える						
	1月	【理解】イースター島になぜ森がないのか						
【表現】情報源の明示								
2月	【理解】AIは哲学できるか	定期考査⑤	18					
	【表現】自校の生徒の生活実態を調査する							
3月	【理解】A Iは哲学できるか			定期考査⑤	18			
	【表現】相手に伝わる案内をする							

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・ 教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・ 配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・ 課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・ 授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編 現代の国語 (第一学習社) 常用漢字オールクリア (尚文出版)
 学習課題集 新編 現代の国語 (第一学習社) 新訂国語図説六訂版 (京都書房)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	言語文化①	単位数	1単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、①日本の言語文化のなかでも「古典」に対する理解を深めていく。②日本の古典に多大な影響を与えた漢文分野の学習を通じてげんごにたいす ③他者との関りの中で伝え合う力を高めること。④読書に親しむ中で自己を向上させ、言葉を通して他者と関わる態度を育てること。この三つの力を養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)日本の言語文化に特徴的な語句を理解し、文章の中での実例を通して語感を磨くこと。 (2)古典の世界に親しむために、古典特有の表現や文語のきまりなどについて理解すること。	(1)作品の成立した背景を踏まえた上で、内容の解釈を深めること。 (2)作品を味わい、自分の考えや評価を適切に表現すること。 (3)古典から受け継がれた作品や表現について調べ、まとめたり発表したりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度	・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容	・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数
前期	4月	古文への招待いろは歌	定期考査①	6
	5月	古文冒頭選		
	6月	古文の言葉と仮名遣い	定期考査②	6
	7月	児のそら寝①		
	8月	児のそら寝②		
9月	十二の「子」文字	定期考査③	10	
後期	10月	古典の魅力	定期考査④	9
	11月	徒然草		
	12月	枕草子	定期考査⑤	8
	1月	伊勢物語①		
	2月	伊勢物語②		
	3月	漢文に親しむ		

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編言語文化(大修館書店) 常用漢字オールクリア(尚文出版)
新編言語文化学習ノート(大修館書店) 新訂国語図説六訂版(京都書房)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	言語文化②	単位数	1単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

言語文化①で学習したことを前提とする。言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、①日本の言語文化古典から現代までのに対する理解を深めること。②他者との関りの中で伝え合う力を高めること。③言葉を通して他者と関わる態度を育てること。この三つの力を養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)日本の言語文化に特徴的な語句を理解し、文章の中での実例を通して語感を磨くこと。 (2)古典の世界に親しむために、古典特有の表現や文語のきまりなどについて理解すること。	(1)作品の成立した背景を踏まえた上で、内容の解釈を深めること。 (2)作品を味わい、自分の考えや評価を適切に表現すること。 (3)古典から受け継がれた作品や表現について調べ、まとめたり発表したりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数
前期	4月	言語文化と古文	定期考査①	6
	5月	徒然草①		
	6月	伊勢物語①東下り	定期考査②	6
	7月	伊勢物語②筒井筒		
	8月	舟を編む①		
9月	舟を編む②	定期考査③	10	
後期	10月	言語文化と漢文	定期考査④	9
	11月	漢文入門①		
	12月	漢文入門②	定期考査⑤	8
	1月	側転と三夏①		
	2月	側転と三夏②		
3月	故事成語			

5 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。 ・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。 ・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。 ・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。 ・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

高等学校 言語文化 (数研出版) 常用漢字オールクリア (尚文出版) 高等学校 言語文化 準拠ノート (数研出版) 新訂国語図説六訂版 (京都書房)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	伝える国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

演習を通して話す・聞く・読む・書くという表現力を身につけるとともに、自分の考えを伝える技能や態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の成績 授業中の取り組み内容 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の成績 授業の振り返り記録 単元のまとめ記録 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での聞く態度 授業での話す態度 課題に対する取り組みの姿勢 生徒の自己評価

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)		
前 期	4月	1, 書いて伝える (副教材を適宜取り入れる)	整った文章を書くための基 柄の学習 ・漢字、仮名遣い、表記の仕 方	定期考査 ①	13	
	5月					
	6月		・係り受け ・文末表現の統一 ・書き言葉と話し言葉 ・適切な敬語 ・原稿用紙の使い方	定期考査 ②	15	
	7月		わかりやすい文章を書くため 学習	定期考査 ③	15	
	8月					
9月	・長すぎる文を単文に ・読点を効果的に使う ・曖昧な文を避ける ・接続詞の使い方 ・作文演習(1)					
後 期	10月	2, 小論文・レ ポート入門	作文演習(2) ・小論文とは何か ・資料を読み取って書く ・論文をかくために ・小論文演習	定期考査 ④	18	
	11月					
	12月		3, 会話・議論・ 発表	・手紙、はがき、電話 ・相手や場面に応じた会話 ・プレゼンテーションの工夫	定期考査 ⑤	17
	1月					
	2月					
3月	4, まとめの学習 ・基礎力強化 同音異義語、慣用句、四字 敬語の使い分け					

4 評価の方法

毎時間の授業の取り組み状況、出欠席、考査得点、提出物の内容等、総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

国語表現改訂版(大修館書店) パスポート国語必携国語常識の演習と確認改訂版(桐原書店) 国語表現基礎練習ノート(大修館)

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	古典A	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 教科書・副教材

古典A 物語選 (大修館書店)

2 科目の目標

古文、漢文の読解力と鑑賞力とを身につけ、おもしろさを味わう。古文では、日本古来の伝統文化に対しても興味関心を深め、漢文では基礎的な訓読をマスターし、漢文特有な言い回しが、現代にも散見されることに気づき、言語の世界を広げる。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前 期	4月	「十訓抄」 大江山いくのの道	口語訳の仕方を修得する 登場人物の機転、話の展開等を理解しながら面白さを味わう。 同時に和歌の修辞法を学ぶ 発展学習としてタブレットを使用し、和泉式部について理解を深める	定期考査①	13
	5月				
	6月	「方丈記」 行く川の流れ	口語訳を自分なりに完成させる 作品の冒頭から作者の主張を捉える。 「安元の大火」の描写力について学び味わう。 この章段と冒頭の主張について理解を深める	定期考査②	15
	7月	安元の大火			
8月		発展学習として、タブレットを使い 方丈記の他の段を各自調べ、その内容等をレポートにまとめ発表する	定期考査③	16	
9月					
後 期	10月	「大鏡」 競べ弓	口語訳を正確に行う 内容を読み取る中で、実在の人物像に迫り関心を高める。 漢文の訓読について習得する 故事成語の背景を捉え、現代に生きる故事成語への関心を高める。	定期考査④	18
	11月	漢文 故事「画竜点睛」			
	12月	漢文 史伝「鴻門の会」	書き下し文を正確に行う 漢文の史伝をまとめて読んでいくことにより、漢文に慣れ、面白さを味わう。 物語に描かれた人物の心情に迫り、英雄に思いをはせ、世界観を広げる。 当時の貴族社会について学びながら「もののあわれ」について考える。	定期考査⑤	16
	1月	〃 「項王の最期」			
	2月	「源氏物語」			
3月	桐壺				

4 評価の方法

定期考査を中心に、出席状況と授業態度、レポート作成に対する取り組み、完成度を総合的に評価する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	漢字と文化	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

漢字の成り立ちや意味、用法等を理解することで、豊かな言語感覚を育むことを目標とする。また、実用場面において適切な言葉遣いや表記が出来るようになることも重視し、様々な表現に対応する言葉の獲得を目指す。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)漢字の成り立ちや歴史的背景を理解し使えること。 (2)実社会において適切な表現ができるよう、語彙を増やし、読み書きと意味の理解が深まること。 (3)熟語同士の関係性を理解し、言い換えや表現の豊かさについて認識が深まること。	(1)興味関心のある漢字の成り立ちについて、調べ学習を元に自分の言葉で、成立背景を説明すること。 (2)場面に応じて、適切かつ個性的な表現を行うこと。 (3)相互評価を通じて、相手の表現の良さを認め、自己の表現をより豊かなものにする。	(1)授業の説明をきちんと聞き取るようとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業時の小テストの成績 ・ 授業中の発言内容 ・ 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業の振り返り記録 ・ 単元のまとめ記録 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での聞く態度 ・ 授業での話す態度 ・ ノートの作り方 ・ 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・ 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容		考查範囲	時数
前期	4月	【理解】基礎編1～4回	基本的な漢字の読み書きの確認を通して、自分の語彙力を把握する。	定期考查 ①	14
		【表現】難易語句の説明	難解な語句の意味を調べ、きちんと説明できるようにする。		
	5月	【理解】基礎編5～8回	同音異字や相對字を理解する。	定期考查 ②	14
		【表現】本文要約(1)	実用的な文章を読み、キーワードに着目して要約を行う。		
	6月	【理解】必修編1～4回	故事成語について理解を深め、適切な使い方を身に付ける。	定期考查 ③	16
		【表現】慣用句を用いた文	会話やスピーチにおいて、上手な慣用句の使い方ができるようにする。		
	7月	【理解】必修編5～8	ことわざの中にある知恵を読み解き、適切な使い方を学ぶ。	定期考查 ④	18
		【表現】本文要約(2)	外来語を多用した文章を、漢語の表現に置き換えて、要約する。		
	8月	【理解】チェックリスト	前期学習のまとめ(1)、語句の意味確認。	定期考查 ⑤	16
9月	【理解】完成編1～4回	漢字検定2級程度の漢字の読み書きを習得する。			
	【表現】場に応じた敬語表現	職場における敬語表現を中心に、会話原稿をつくる。			
後期	10月	【理解】完成編5～8回	難読漢字の読み方、熟語の対義語を習得する。	定期考查 ⑥	16
		【表現】漢語を用いた韻文	山月記を教材に、漢語を用いた文章、漢詩文を理解する。		
	11月	【理解】対策編1～2回	課題作文を書くための基礎的な知識を再確認する。	定期考查 ⑦	18
		【表現】課題作文のテーマ	ジャンル別に課題作文のテーマを選定し、メモを作る。		
	12月	【理解】対策編3～4回	手紙文・電話の応対について基本的な方を習得する。	定期考查 ⑧	18
		【表現】挨拶状の作成	時候の挨拶にも留意しつつ、的確に用件を伝えられる挨拶状をつくる。		
	1月	【理解】対策編5～9回	課題作文のポイントを理解し、段落構成を検討する。	定期考查 ⑨	18
		【表現】課題作文	課題作文を書き、自己添削や相互評価を行う。		
	2月	【理解】対策編10～12回	現代用語の理解を深める。	定期考查 ⑩	18
		【表現】面接練習	面接試験を想定し、練習を行う。		
3月	【表現】まとめ	語彙力や用法について1年間の復習を行う。	定期考查 ⑪	18	

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

プレゼミ総合国語(浜島書店)

※指導計画の内容は、進捗等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	論述の基礎	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

新聞のコラムや社説を主な教材として扱いながら、文章の構成を把握することによって要約の技術を高め、論の要旨を読み取る力をつけることを目指す。加えて、他者の考えを理解するとともに、それに対する自らの意見を持つことの大切さに気付かせ、筆記・口述ともに論述ができるようにする。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)論理的な文章を書く上で必要な語彙力を身に付けることができること。 (2)新聞コラムや社説を読解し、的確な要約ができること。 (3)自らの意見をわかりやすく伝えられる文章構成ができること。	(1)新聞記事等を通して、社会問題に関心を持ち、自分の考えを深めることができること。 (2)推敲や相互評価により、自己の表現上の特徴を知り、より良い表現ができるようになること。 (3)自分の考えを説明する上で必要となる具体例や統計資料等を的確に選択できるようになること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)新聞のコラム等を自発的に読み、内容の理解と自分の考えを深めようとする事。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようとしていること
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業時の提出課題の成績 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業の振り返り記録 ・ 単元のまとめの内容 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での聞く態度 ・ 授業での話す態度 ・ 提出課題の作り方 ・ 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・ 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数
前期	4月	【理解】 評論的文章の語句	定期考査①	14
		【表現】 新聞コラムの書写		
	5月	【理解】 評論的文章の構成	定期考査②	
		【表現】 感想文と言見文		
	6月	【理解】 新聞コラムの読解(1)	定期考査③	
		【表現】 段落の見出し(1)		
	7月	【理解】 新聞コラムの要約	定期考査④	
【表現】 段落の見出し(2)				
8月	【理解】 新聞コラムの読解(2)	定期考査⑤		
	【表現】 社説の筆写			
9月	【理解】 現代用語の理解	定期考査⑤		
	【表現】 社説の筆写			
後期	10月	【理解】 社説の読解	定期考査④	18
		【表現】 社説の要約		
	11月	【理解】 報道番組の構成	定期考査⑤	
		【表現】 報道記事の要約		
	12月	【理解】 テーマ別論述(1)	定期考査⑤	
		【表現】 小論文演習(1)		
	1月	【理解】 テーマ別論述(2)	定期考査⑤	
		【表現】 小論文演習(2)		
	2月	【理解】 テーマ別論述(3)	定期考査⑤	
【表現】 小論文演習(3)				
3月	【表現】 1年間のまとめ	定期考査⑤		

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・ 教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・ 配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・ 課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・ 授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

『コラムと論説』演習ノート第5集(京都書房)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代文	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

1 科目の目標

「現代の国語」での学習を発展させ小説、随筆、評論文を読むことで語彙力・読解力を高め、また様々な時代、世界、感じ方考え方を知り、理解し味わいながら、広く自らの生き方についての考えを深め、まとめる。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1) 文章を様々な文章を読むことを通して、語彙力を高め、語感を磨く。 (2) 様々な文体に於けるその表現効果について知る。 (3) 作品に現れる時代背景について理解する。 (4) 難解な語句についての意味を確実に理解する。	(1) 作品の背景を踏まえた上で、内容の理解を深めること。 (2) 筆者の主張に対して、自分の考えをまとめ適切に表現すること。 (3) 作品を味わい、自分の視野を広め、様々な世界、社会のあり方、自分の生き方を見つめ、それをまとめること。	(1) 授業に出席し、学習する姿勢ができていないこと (2) ノートやメモを取り、内容の理解に努めようとしていること。 (3) 作品ごとに自分なりの考え、意見をまとめようとしていること。 (4) 自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 提出レポートの完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 提出レポートの内容 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に出席し積極的に取り組む姿勢 ・ 授業での発言、人の意見を聞く態度

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	随想・評論編 「さくらさくら」	定期考査①	14
	5月	筆者の捉え方を読み取り、日本人特有の感性について理解を深める。 発展学習として、桜の名歌を調べ感想をレポートにまとめる		
	6月	小説編 「ナイン」	定期考査②	15
	7月	詩歌編 「I was born」		
8月	随想・評論編 「『少女たちのひろしま』」	定期考査③	15	
9月	戦争に対する筆者の感じ方考え方を理解する。 戦時下に生きた人々の日常と悲劇について考え、現代社会に生きる自分について思いを深める。			
後 期	10月	小説編	定期考査④	18
	11月	「山月記」		
	12月	難しい語句の意味を理解し、簡潔な文体や表現を味わう。 主人公の内面、苦悩を読み取る。 主人公の言葉に出てくるいくつかの印象的な考えや語句に対して、自分の考えをまとめる 人間性と生き方について自分に照らして考えを深める。		
	1月	評論編 「鏡としてのアンドロイド」	定期考査⑤	16
2月 3月	筆者の主張を読み取る 新しい社会の技術は、「人間・自分を知ること」が根源であるということに対して理解し、自分の存在に対して深く考える。			

5 学習に当たっての注意とアドバイス

・ 遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨む。
・ 教科書やファイル、タブレット(使用時)などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
・ 配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
・ 課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。

6 教科書・副教材

現代文A(東京書籍) 習課題ノート(東京書籍)

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	古典基礎 公開講座募集予定	単位数	2単位
-----	---------------	-----	-----

1 科目の目標

古典の基礎を復習しつつ、代表的文学作品に触れながら、上代から中古にかけての文学史を概観する。その際、百人一首をもう一つの軸に据えて親しむ。
(なお、公開講座として社会人聴講生を受け入れる予定である。)

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)日本の言語文化に特徴的な語句を理解し、文章の中での実例を通して語感を磨くこと。 (2)古典の世界に親しむために、古典特有の表現や文語のきまりなどについて理解すること。	(1)作品の成立した背景を踏まえた上で、内容の解釈を深めること。 (2)作品を味わい、自分の考えや評価を適切に表現すること。 (3)古典から受け継がれた作品や表現について調べ、まとまりを発表したりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の成績 小テストの成績 授業中の発言内容 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の成績 授業の振り返り記録 単元のまとめ記録 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席 授業での聞く態度・話す態度 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 生徒の自己評価

4 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	古典基礎事項復習	定期考査①	13
	5月	上代の文学 ・古事記 ・日本書紀 ・万葉集		
	6月	(百人一首の基礎事項と文学史・文語文法への応用)	定期考査②	15
	7月	中古の文学(1) 物語		
	8月	・竹取物語 ・伊勢物語 ・大和物語 ・源氏物語 ・宇津保物語ほか	定期考査③	15
9月				
後 期	10月	中古の文学(2) 日記 ・土佐日記 ・更級日記	定期考査④	18
	11月	・蜻蛉日記 ・紫式部日記ほか		
	12月	中古の文学(3) 歴史物語 ・大鏡 ・栄華物語	定期考査⑤	17
	1月	説話 ・今昔物語集ほか		
	2月	中古の文学(4) 随筆 ・枕草子		
3月	中世の文学 ・徒然草 ・方丈記			

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 本来は国語総合の古典分野を履修済みであることが望ましいが、古典の基礎(復習)から進めるので諦めずに取り組むこと。活用等の丸暗記を求めない分、辞書や資料ほかを適切に利用して自ら調べたり、積極的に課題提出をするなど、古典作品に触れる意欲を持とう。定期考査での成績が思わしくない場合は課題提出で補う等、学習の成果を形に残す努力をしよう。「規定内なら欠席してもいいだろう」とか、逆に「出席さえしていれば何とかなるだろう」といった姿勢でいると、評価が得られず、単位修得に苦勞することになるので、自覚ある取組を。

6 教科書・副教材

『よくわかる新選古典文法』(東京書籍) 古語辞典 国語便覧 百人一首参考書 配付プリント

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	わかる国語	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

・中学までに学習した内容の復習を中心に授業を行う。日常生活で役立つ知識や論理的な考え方などの基礎を身につける。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)基礎的な理解に必要な語句を増やし、的確に使えるようになる	(1)そのときの話題に対して情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、考えを広げたり深めたりできる	(1)説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)課題を設定し、解決しようとしていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

3 学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	文の構造	単語・文節・自立語・付属語・主語と述語	定期考査①	13
	5月				
	6月	修飾と被修飾	修飾語・副詞の呼応・言葉のつながり	定期考査②	15
	7月				
8月	文と文の関係	接続語・指示語	定期考査③	15	
9月					
後期	10月	論理的関係	イコールの関係・対立関係・因果関係	定期考査④	18
	11月				
	12月	論理的な読解	文章の論理構造・要約	定期考査⑤	17
	1月				
2月	心情問題	心情把握・詩の読解	定期考査⑤	17	
3月					

4 評価の方法

学習への取り組み……………授業参加の姿勢(欠席・遅刻・早退のない真剣な取り組み)

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業はプリント学習・演習解説が中心であるので、授業をしっかり聞き、実際に手を動かして問題を紙の上に解いてみる。
- ・基本的には小中学校の内容なので、人に聞くことをためらわず問題を理解して解き進める。

6 教科書・副教材

教科書…不使用 ・ 教科担当者の配布するプリント